

# 令和4年度児童発達支援さくらんぼ事業所自己評価シート

保護者、職員に下記の内容でアンケートを実施し、その結果を事業所内で評価を抽出し、分析、改善への取り組みを考察しました。

## 【アンケート調査の概要】

### 【保護者、職員共通項目】

- 1 サービス提供時の環境面について
- 2 児童への支援内容について

### 【保護者向け項目】

- 1 関係機関との連携について
- 2 保護者への説明責任・信頼関係について
- 3 非常時の対応について
- 4 満足度について

### 【職員向け項目】

- 1 適切な支援の提供について
- 2 関係機関や保護者との連携について
- 3 保護者への説明について
- 4 リスク管理について

\*評価の抽出は別紙をご参照下さい。

## アンケートの考察

- ・室内の構造化、バリアフリー化への配慮について  
→配慮がされているかわからないとの回答あり。間取りの都合もあるが、事業所としての取り組み、考えを紙面、ホームページなどの方法で伝えていく。また、『構造化』について職員の知識を深める。
- ・入口がわかりにくい  
→奥まった壁に「児童ダイルーム さくらんぼ」と掲示はしているが、わかりにくい。柵に事業所名を掲示する。ケアプラの案内図に掲示する。
- ・専門性を感じられない。保育所のようなイメージ。  
→事業所ごとに営業方法は違うが、児童の発達を理解し、適切な支援の元、成長を促すことは共通している。専門性を感じてもらえる努力はしていかなければいけない。保育も子どもの発達促す支援が行われおり、保育所のイメージとは言われても、保育も子どものプロが行っていること。何をもって専門とみてもらえるのかを考え、職員自身も専門性として見てもらえていない状況を知らなければならぬ。
- ・共通理解がされていないと感じている  
→毎日、営業後の支援の振り返りは行っており、情報提供も行っているが、タイムリーに共有が行えきれない事はある。固定の担当制ではないので、日々の変化状況はタイムラグが生じる場合はある。連絡帳の共有、面談の共有、相談後の共有、送迎時の相談共有を引き続き行い、タイムリーに共有できるように努力する。
- ・定期的な保護者面談がないとの回答多い  
→計画書作成の為の面談は半年に1回（年2回）行っているが、これ以外での面談は行っていない。相談は随時受付としている。連絡帳で相談を書いてくれる方もいる。相談窓口がある旨をアナウンスしていく。
- ・定期的な活動予定の発信はできていない  
→その時の児童状況、関心、興味を考えると予定を決めるには直前になる事が多い。事前に活動内容を提示するのは難しい状況にはある。

- ・保護者同士の交流の機会を是非行ってほしい
- 茶話会の開催、参観週間の後の集まれる場の提供ができるのではないかと思います。

分析・検討してみて…

### 事業所の強み

- ・支援前後にミーティングを行い、支援前の情報共有、支援後の振り返り気付き、リスク、改善点を共有し、支援に反映させている。職員の支援上の悩みなども共有し、職員が一人で抱え込まない環境に配慮している。
- ・毎月の会議でリスクマネジメントの一貫で職員間での助け合い、支援の配慮の気付きなどを発表する事により職員の質の向上にもつなげている

### 事業所の改善点

- ・保護者同士の連携がとれる機会を設ける
- ・「専門性とは何か」我々が行っていることを今一度見直す
- ・保護者からの面談、相談は随時受け付けているが、伝わっていない。わかりやすい内容にして、アナウンスする。
- ・『いつも忙しそう』と思わせてしまっている。

## 事業所の改善への取り組み



### ・室内の構造化、バリアフリー化への配慮について

→配慮がされているかわからないとの回答あり。間取りの都合もあるが、事業所としての取組み、考えを紙面、ホームページなどの方法で伝えていく。また、『構造化』について職員の知識を深める。

### ・入口がわかりにくい

→奥まった壁に「児童ダイルーム さくらんぼ」と掲示はしているが、わかりにくい。  
柵に事業所名を掲示する。ケアプラの案内図に掲示する。

### ・保護者同士の交流の機会を是非行ってほしい

→茶話会の開催、参観週間の後の集まれる場の提供。

### ・専門性を感じられない。保育所のようなイメージ。

→事業所ごとに営業方法は違うが、児童の発達を理解し、適切な支援の元、成長を促すことは共通している。専門性を感じてもらえる努力はしていかなければいけない。何をもって専門とみてもらえるのかを考え、職員自身も専門性として見てもらえていない状況を知らなければならない。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・保護者の求める『療育』『専門性』を理解し、サービス提供に繋げていかなければいけないと思った。
- ・コロナの緩和措置が進んでいくと思われるので、他機関との連携を広げていきたい。
- ・職員のアンケート結果より関係は良好であると思う、風通しの良い環境に気を付けていきたい。

事業所名 さくらんぼ

担当者 吉田 優美